教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 健康・スポーツ科学科　　資格： 教授　　氏名： 村越　直子

研究分野	研究内容のキーワード
ソマティクス,ダンス,臨床教育学	ソマティクス,モダン・ダンス,コンテンポラリー・ダンス,ダンス専門教育,臨床教育学
学位	最終学歴
臨床教育学博士	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科　博士後期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.ヨーク大学「グローバル・ネットワーク・ラーニング」に参加	2024年7月～2024年8月	カナダ、トロントのヨーク大学「グローバル・ネットワーク・ラーニング」の一環として、ヨーク大学ダンス科の学生とゼミ生がオンラインを活用しての交流・学修を行った。
2.専門英語B/D	2017年4月～現在	英語のボキャブラリーをからだで理解することを目指し、ダンス・レッスン（専門英語B)、ボディワーク（専門英語D)を取り入れた授業を展開している。
3.マリン・スポーツ実習	2017年4月2022年9月	実習長として、2017年度より学科のマリン・スポーツ実習に、現地の小学校との交流、現地の自然環境や災害に関する学習、現地の文化を理解するという3つのテーマ学習を新たに取り入れた。実習地の状況を理解することや、その地域への貢献を視点におくことにより、期間中に実習地とより良い関係を構築することに結びついた。学生の主体的な学習が促進された。
4.海外の健康・スポーツの研究	2013年3月	トロントのヨーク大学・ライヤソン大学の2大学のダンス学科と交流。 日加の学生がそれぞれに創作ダンス作品の講評をし合った。本学学生が現地大学院の授業も含めカナダの学生に混じって受講した。ゼミ生が卒論の為のインタビューやアンケート調査を行った。ダンス甲東園2013のワークショップを受講した学生が、そこでトロントから来日していた振付家の作品をトロントのキャストと共に公演出演した。
5.特色ある授業外活動の実践例	2013年～現在	ゼミの学生達と、海外で活動するダンサーを招いたワークショップの企画、または支援する活動（バレエ講習会の企画、海外アーティストによるワークショップのボランティア）を行ってきている。国際的な活動をしている人々の言葉や振る舞いから、それぞれに専門領域に関する探究心や学習意欲を高めている。
6.学生の学外活動を活用した学習促進	2011年4月～現在	ゼミの活動として、学外での催しにダンス作品を提供する（にしのみや野外アートフェスティバル、船坂アートビエンナーレ、ダンス甲東園など）、ダンスの地域性や身体性を実感する試み（田植えボランティア）、に参加し、ダンスについての理解を深めた。学生と地域の芸術振興活動や文化伝承について考える機会が持てた。
7.合同ダンス発表会の実施	2011年～現在	ダンスⅠ（現代的なリズムのダンス）、ダンスⅡ（創作ダンス）、ダンスⅢ（コンテンポラリー・ダンス）の授業の成果を、期末のダンス発表会で受講者全員で披露しあう。互いの独創的な発想に触れることで、表現文化の奥深さを理解することにつないでいる。
8.西宮大学交流センター・オリジナル科目	2011年～現在	大学交流センターのオリジナル科目をコーディネーターとして受け持っている。 地域のアーティストによる専門的なダンスの実践を、他大学や専門の違う学生と学び合い、それぞれの視点からディスカッションすることによって、視野の広がりがみられる。
9.グループワークでダンス作品の創作	2010年～現在	ダンスⅠの授業では、クラスの仲間と意見を出し合いながら小作品を創作している。授業の最後にお互いの

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		ワークを経過発表し、感想を交換しながら、作品に仕上げていく。自分の持ち味、他人の持ち味を、授業を通して学びあう。
2 作成した教科書、教材		
1.ダンスⅠ・ダンスⅡ・ダンスⅢ・ダンス指導法授業ノート	2022年4月	ダンスⅠ（現代的リズムのダンス・フォークダンス）、ダンスⅡ（創作ダンス）、ダンスⅢ（ダンス技術）、保健体育科指導法Ⅶ（ダンス指導法）の授業を通じて使用する資料と、授業内容の整理するノートを作成した。村越直子、豊永洵子で共同編集・共著。ダンスⅡとダンスⅢを担当した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.京都女子大学発達教育学研究科　表現文化専攻	2023年4月1日～現在	運動・舞踊特論Bを担当。
2.西宮大学交流センター単位共通講座オリジナル科目	2011年4月～現在	2011年より西宮10大学単位共通講座のセンターオリジナル科目を、コーディネーター兼講師として担当している。
3.神戸女学院大学音楽学部舞踊専攻	2010年4月～2014年3月	非常勤講師　モダン・コンテンポラリーダンスを担当した。
4.カナダ国立アートセンターにおけるModern Dance Workshop	2007年3月	National Arts Centre, Ottawa(カナダ国立アートセンター）において、ダンスワークショップの講師としてモダン・ダンスのレッスンを行った。
5.神戸女学院大学音楽学部舞踊専攻	2006年4月～2010年3月	専任講師としてモダン・コンテンポラリーダンス実技、舞踊史、アナライズ・クラス、ソロリサイタル（作品創作）を担当した。
6.Hart House, University of Toronto	2003年2月～3月	カナダのトロント大学のハートハウスにおける公開講座「Mitzvah　Technique」を、臨時講師として担当した。
7.Modern Dance Master Class	2001年9月	Peterborough New Dance (Canada)　からの依頼により、Trent University では芸術専攻学生に、また、Market Hall Theatre　においては一般公開のマスタークラスを行った。
8.York University, Faculty of Fine Arts,Dance Department,	2000年1月～2006年3月	Course Director として、Modern Danceの授業を担当。
4 その他		
1.Kaeja Elevation 2019 ワークショップの開催	2019年3月23日～2019年3月24日	カナダのダンスアーティスト、Allen Kaejaと、Karen Kaejaを招いて、コンタクト・インプロヴィゼーションとリフトのワークショップを、関西圏のダンサーと大学生を対象に開催した。会場：武庫川女子大学甲子園会館、および中央キャンパス第１体育館ダンス室
2.武庫川女子大学附属高校ダンス部との連携	2018年４月1日～現在	武庫川女子大学附属高校ダンス部と連携を強化し、大学ダンス部の定期公演における出演、ダンス部主催のワークショップに高校生が参加、定期的な合同レッスンの実施など、部活動においての交換の場を広げている。
3.ラバン・ムーヴメント・アナリシス講習会	2016年11月～2017年5月	ダンス研究とダンス教育で活用されている、ラバン・ムーヴメント・アナリシス（動作分析）とバーテニエフ・ファンダメンタルズの講習会を開催した。本学教員、学生、OGをはじめ、地域の教員やボディワーカーが参加した。
4.Shahar Binyaminiによるクリエーションワークショップ	2016年9月11日～2016年9月25日	元バットシェバ舞踊団プリンシパルダンサーのシャハー・ビンヤミニ氏が本学ダンス部にダンス作品を創作する企画を実施した。2016年12月の第48回ダンス部定期公演（会場：ピッコロシアター）でその成果を発表した。
5.Gaga ワークショップの開催	2016年9月、2014年9月	イスラエルを代表する振付家オハッド・ナハリンが生み出した身体技法Gagaの講習会（主催：A-core dance、　Gaga Movement 後援：イスラエル大使館）を、本学で開催した。講師は、元バットシェバ舞踊団のプリンシパルダンサー、シャハー・ビンヤミニ氏が担当した。
6.海外スポーツボランティアプログラムの開発	2016年4月～2019年8月	2015年に「さらなる大学教育の質向上のために」教育

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		改革・改善プランにグループで応募した「海外スポーツボランティアプログラムの開発（代表：松本裕史准教授）」が採択された。メンバー（伊東太郎、村越直子、N.J.ルドルフ）として、フィリピン、セブを拠点に活動するセブン・スピリットに協力を得て、プログラムの開発を進めている。
7.バトン・チアリーディング部副部長	2015年4月～現在	
8.ダンス部部長	2015年4月～現在	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.Registered Somatic Movement Educator	2024年2月	ISMETA 公認 ソマティック・ムーヴメント教育者となった。
2.Certified Movement Analyst	2023年12月	Laban/Bartenieff Institute of Movement Studies (LIMS)より、公認ムーヴメント・アナリスト (CMA)の資格を取得した。
3.Certified Teacher of BodyMind Dancing	2021年1月	ソマティック実践者マーサ・エディ博士が考案したソマティック・ダンス技法、ボディマインド・ダンシングの認定教師の資格
4.Mitzvah Technique 認定教師	2008年5月	カナダでネヘミア・コーヘン氏によって開発された姿勢法：ミツヴァテクニックの指導資格
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.第24回兵庫県高等学校ダンス大会	2024年6月7日	兵庫県明石市アワーズホールで開催された、第24回兵庫県高等学校ダンス大会において審査員を務めた。
2.座・高円寺 ダンスアワードⅡ	2024年4月7日	座・高円寺　ダンスアワードⅡにおいて、アフタートークのコメンテイターとして登壇し、大学におけるダンス教育についてのプレゼンを行った。
3.第２３回兵庫県高等学校春季ダンスコンテスト	2024年2月17日	兵庫県高等学校体育連盟ダンス部の依頼で、兵庫県高等学校春季ダンスコンテストの審査員をした。会場：高砂市文化会館　じょうとんばホール
4.第23回兵庫県高等学校ダンス新人大会	2023年11月3日	兵庫県高等学校体育連盟ダンス部の依頼で、第２３回兵庫県高等学校ダンス新人大会の審査員を務めた。会場：丹波篠山市立田園交響ホール
5.令和５年度大阪高等学校保健体育研究会「ダンス実技研修会」	2023年7月3日	令和５年度大阪高等学校保健体育研究会「ダンス実技研修会」の講師を務めた。
6.第22回兵庫県高等学校春季ダンスコンテスト　審査員	2023年2月18日	兵庫県高等学校体育連盟ダンス部の依頼で、兵庫県高等学校春季ダンスコンテストの審査員をした。会場：高砂市文化会館
7.第34回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）コメンテーター	2022年8月13日	神戸文化ホールで開催された第34回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）参加発表部門におけるコメンテーターとして、会場で各発表作品について講評を行った。主催：（公社）日本女子体育連盟・神戸市・神戸市教育委員会
8.第22回兵庫県高等学校ダンス大会　審査員	2022年6月3日	兵庫県明石市アワーズホールで開催された、第22回兵庫県高等学校ダンス大会において審査員を務めた。
9.第21回兵庫県高等学校ダンス大会　審査員	2021年6月4日	兵庫県高等学校体育連盟ダンス部の依頼で、第21回兵庫県高等学校ダンス大会の審査員をした。
10.第57回大阪高等学校創作ダンス発表会	2016年11月13日	大阪高等学校保健体育研究会の依頼で、第57回大阪高等学校創作ダンス発表会に出席し、出品作品に関しての講評を行った。
11.大阪府教育庁教育振興室　子どもの体力づくりサポート事業　「めちゃWAKUWAKUダンス」普及促進	2016年8月～2016年12月	大阪府教育庁からの依頼を受け、豊中市立桜井谷小学校に、子どもの体力づくりサポート事業の一環として「めっちゃWAKU　WAKU ダンス」を指導を行った。
12.第15回兵庫県高等学校春季ダンスコンテスト　審査員	2016年2月20日	兵庫県高等学校体育連盟ダンス部の依頼で、兵庫県高等学校春季ダンスコンテストの審査員をした。
13.平成27年度猪名川町生涯カレッジ「リバグレス猪名川」	2016年2月6日	平成27年度猪名川町生涯カレッジ「リバグレス猪名川」の講師として、「生活の美」をテーマにした講義

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		を行った。
14.平成27年度　兵庫県高等学校体育連盟ダンス部　選手強化育成事業・実技講習会　講師	2015年8月25日	兵庫県高等学校体育連盟ダンス部から依頼を受け、選手強化育成事業・実技講習会の講師として、県内の高校生を指導した。
15.全日本小中学生ダンスコンクール西日本地区大会ボランティア	2015年8月18日～8月20日	朝日新聞主催の全日本小中学生ダンスコンクール西日本地区大会が本学で開催される際に、学生ボランティアを募って大会を支えた。
16.第22回野外アートフェスティバル　in にしのみや～きずな～	2013年10月7日	主催：西宮市文化振興財団 野外コンサート「ダンス・モザイク」を監修した。 会場：西宮市役所前六湛寺公園
17.兵庫県教育委員会　平成25年度中学校教員武道・ダンス指導力向上事業「学習指導要領に対応したダンス学習の指導法」講師	2013年8月8日2013年11月29日	兵庫県教育委員会より依頼を受け、宝塚市（8月）但馬地区（11月）で、中学校教員武道・ダンス指導力向上事業「学習指導要領に対応したダンス学習の指導法」において講習した。
18.第12回西宮大学交流祭　キャンドルナイト	2012年12月16日	主催：西宮市、西宮大学交流協議会 西宮北口ACTA2階の円形デッキにて行われた大学交流祭「キャンドルナイト」の制作コーディネーターを務めた。
19.第21回野外アートフェスティバル in にしのみや～き ぼう～	2012年10月8日	主催：西宮市文化振興財団 大学生を中心にしたダンスパフォーマンス「ダンス・モザイク」を監修した。 会場：西宮市役所前六湛寺公園
20.ダンス甲東園	2011年12月	主催：株式会社双葉化学商会 ナチュラルダンステアトルの舞台と、実践に大学生ダンサー達を交えた企画をコーディネートした。 ①ダンス公演、②ダンス指導法ワークショップ、③高齢者施設へのアウトリーチを実施。
21.第20回野外アートフェスティバル　in にしのみや～つなぐ～	2011年10月	主催：西宮市文化振興財団 ミニ・コンサート「ダンス・モザイク」の監修をした。 会場：西宮市役所前六湛寺公園
4 その他		
1.ニューヨーク大学ステインハード校客員研究員	2019年9月1日~2020年8月31日	ニューヨーク大学ステインハード校訪問研究員として、同大学院の施設を活用、聴講、授業実践への参加、教授らの助言を受けながら、ソマティクスとダンスの研究を進める。
2.国際センター委員	2019年4月1日～現在	
3.クラブ強化対策委員	2015年4月～現在	クラブ強化対策委員として、クラブの運営、強化対策を検討。
4.生活美学研究所所員	2013年4月2024年3月31日	生活美学研究所所員として、定例研究会、ワークショップ、シンポジウムの開催などの企画・運営と、研究活動を行う。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.Changing Japanese Identities in Multicultual Canada	共	2003年	Centre for Asia-Pacific Initiatives, University of Vitoria	ビクトリア大学（カナダ）が発行した単行本(Eds.Kess, Joseph F., Noro, Hiroko,.Ayukawa, Midge M.,Lansdowne, Helen.,[et al].)のなか、Culture-Related Gender Issuesの項を担当した。 執筆箇所（単著）Naoko Murakoshi ”Japanese Dancer in the view of Canadian Artists” pp.303-308. カナダにおける舞台芸術活動において、日本人女性であるというアイデンティティがキャスティングや、作品、創作過程にどのような影響を及ぼしているかについてと、カナダ人クリエーターや観客の持つ先入観がパフォーマー本人のなかでどのように演技を左右しているのかをカナダ人アーティストへのインタビューを通じて考察し、社会が形成する先入観の芸術分野における問題点を指摘した。
2 学位論文				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
1.ソマティクスとダンス専門教育をつなぐ実践と思想―ダンサーが経験する哲学的動揺―	単	2019年03月	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科臨床教育学専攻	欧米のダンス専門教育においては、ソマティクスがカリキュラムに取り入れられている。本論では、まず、ソマティクスが学問領域として形成される過程を、ダンサーたちの実践と結びつけて整理した。その上でダンサーがソマティクスを自身のトレーニングに統合する際に起こる困惑や葛藤を哲学的動揺とよび、ダンサーの専門性に関わりを持つものとして位置づけた。そして、日本のダンス教育において広まりつつあるソマティクスについて、ダンサー・ダンス指導者たちの語りをもとに実践上の課題を提起した。
3 学術論文				
1.Somatic Feedback Design for Ballet Studios in Japan: A Case Study on Integrating Somatic Education in Ballet Training（査読有）	共	2025年4月4日	Journal of Dance Education, pp.1-11. National Dance Education Organization	日本のバレエダンサーとその指導者を対象に、バレエトレーニングとソマティック教育を融合させた「ソマティック・フィードバック」を開発し、その応用を試みた。その上でソマティック・フィードバックの効果は、被験者の能力を確認すること、文化的コミュニティを尊重すること、動きと言語を解釈すること、視覚化されたフィードバックを提供することなどのガイドラインを確立した。本研究はソマティック・フィードバックが日本のバレエスタジオにおいて実用的であることを示唆した。橋本有子、村越直子、東出益代の共著https://doi.org/10.1080/15290824.2024.2447561
2.Gaga：「生活する身体」と「パフォーマンスの身体」の往来を可能にするソマティック探求（査読付）	共	2020年11月30日	武庫川女子大学生活美学研究所紀要第30号	世界的に活躍する振付家オハッド・ナハリンが考案したダンス技法「Gaga」が内包する「生活する身体」と「パフォーマンスの身体」の往来を可能にする特徴的な要素を、Gaga教師たちの言説から抽出し、考察を行った。村越直子、東出益代
3.ソマティクスの思想・研究・実践の到達点と臨床教育学（査読付）	単	2018年03月	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科　臨床教育学研究　第24号 pp.1-14	ソマティック理論を展開したハナの実践をたどり、ソマティクス研究の基盤とその独自性を示した。ソマティクス研究で深められている「からだ」理解と、そこに浮かび上がっている課題について検討し、それらが臨床教育学と重なりを持つものとして考察した。
4.ソマティック・エデュケーションがダンス専門教育にもたらした影響と課題―ダンサーとダンス指導者の語りにみる困惑と葛藤を手がかりに―（査読付）	単	2018年3月	日本臨床教育学会 臨床教育学研究 第6巻　pp.89-107	ソマティック・エデュケーションの受容過程において、ダンサーとその指導者にひき起こされる困惑や葛藤とその意味について、哲学的動揺という視点から考察を行った。
5.姿勢の感覚と自己の育ち　―ソマティック・エデュケーションの紹介とその意味の検討	単	2014年11月	臨床教育学研究科開設20周年　記念論文集　pp.173-191	「からだの使い方の吟味」によって主体的な学びの道筋を示すソマティック・エデュケーションの系譜とその主たる概念をまとめた。その上でその実践者の語りから自己の育ちを軸とした技法の本質的な意味の検討を試みた。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.コロナ禍での大学ダンス授業から考えさせられたこと	単	2022年2月19日	武庫川臨床教育学会第１６回研究大会（オンライン）	武庫川臨床教育学会第１６回研究大会のシンポジウム講演・報告の第一部「コロナ禍の今と臨床教育学」についてのパネルディスカッションで、問題提起者として登壇した。表題「コロナ禍での大学ダンス授業から考えさせられたこと」として、大学教育の現場から抽出された自身の実践課題を報告した。
２．学会発表				
1.Embodied Learning: Integrating Mitzvah Technique	共	2024年7月19日	Somatic Movement in Dance Education: Enhancing Health and Creativity for Teachers & Students @Gibney: Agnes Varis Center for	NDEO & ISMETA が合同で主催した Special Topic Conference, Somatic Movement in Dance Education: Enhancing Health and Creativity for Teachers & Studentsにおいて、ミツヴァ・テクニックをダンス・トレーニングに生かす実践法を発表した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
			the Performing Arts New York, NY	
2.ダンス研究の文献翻訳における難しさと課題：マーサ・エディ著「ソマティック実践とダンスの小史」の翻訳プロセスから	共	2023年12月3日	第75回舞踊学会大会	国内のダンス研究に貢献し得る海外の文献を紹介するため，エディの文献 ‘A Brief History of SomaticPractices and Dance: Historical Development of theField of Somatic Education and its Relationship to Dance’の翻訳に取り組み、その過程で浮かび上がった課題を共有した。橋本有子・村越直子
3.マーサ・エディのソマティック実践：ニューヨークからの調査報告	単	2021年3月14日	日本臨床教育学会2020年度オンライン学術研究発表会	研究対象であるマーサ・エディ博士は、アメリカを代表するソマティック研究・実践者のひとりである。本発表では2019年9月～2020年8月に行なったソマティック実践の調査報告として、エディの実践に特徴的に浮かび上がるソマティクスの基礎的・本質的概念について考察した。
4.バレエダンサーへの「新たな質的フィードバック」の試みとその効果	共	2019年12月7日	第 71 回舞踊学会大会 会場：専修大学	ダンサーの語り/言葉に表れる自己イメージとムーヴメントに表れる客観的事実をまとめた「新たな質的フィードバック」を試み、表現技術を高める一助となる可能性が示唆された。橋本有子（主）、村越直子、東出益代
5.身体表現における「新たな質的フィードバック」の可能性とその課題	共	2019年10月19日	日本臨床教育学会第９回研究大会 一般研究発表 会場：北海道教育大学	身体に現れる動きと、その時の内部感覚／認識にはズレや葛藤があるにも関わらず、あまり目を向けられていない。ダンサーを対象者として、インタビューとムーブメント分析からその関連性をまとめ、そのフィードバックによる変化を調査、検討した。東出益代（主）・村越直子・橋本有子・関典子
6.ダンス教育におけるソマティクス実践の現状と課題	単	2017年10月21日	日本臨床教育学会第7回研究大会	ダンサーやダンス指導者が牽引してきたソマティクス実践について、これまでの実践と研究から導き出された課題について発表した。
7.The Improving Effect of Gyrotonic Expansion SystemR on the Performance of Female Gymnasts	共	2016年10月24日	IADMS 26th Conference International Association of Dance Medicine and Science	ジャイロトニックエクスパンションシステムを使用したエクササイズが体操選手の演技にもたらす影響について発表した。北島見江が総括、村越直子：データ収集及び解析補助を担当した。他、東出益代、藤井瑠璃、森山尚子ロビンズの共同研究。データ収集と解析をグループで行っているため担当範囲は限定できない。
8.ダンサーにおきる困惑・葛藤とその意味ーダンス・トレーニングとソマティクスの間でー	単	2016年9月24日	日本臨床教育学会第6回研究大会	日本人ダンサーがソマティクスに触れ、その概念を取り入れダンサーとしての専門性を高めようとする場合に起きる困惑・葛藤について考察を行った。ダンス教育とソマティクスをつなぐ過程に起こる問題を、ダンス指導者とダンサーたちへの聴き取りと先行研究とを照らし合わせて発表した。
9.オハッド・ナハリンが開発したGagaがダンスとダンス教育に問いかけるもの―テルアビヴでの聴き取りに基づいて―	単	2014年11月29日	舞踊学会	バットシェバ舞踊団芸術監督オハッド・ナハリンが開発した動きのメソッドGagaは、今日世界中のダンサー、ダンス教師に優れたダンス教育として注目されている。2013年に行ったナハリンからの聴き取りより、Gagaの基軸となる考え方について考察を行った。
10.姿勢の感覚と自己の育ちをめぐる一考察　－日本におけるミツヴァ・テクニックの実践からー	単	2014年9月27日	日本臨床教育学会	日本におけるミツヴァ・テクニックを実践者たちの語りから、ミツヴァ・テクニックがダンスへ及ぼした影響が、からだの内部の「葛藤」として表れた現在バレエ教師のAさんと、ミツヴァ・テクニックが意味する「からだの再教育」が具体的に表現されていたBさんの語りを紹介し、この2つの語りから、ミツヴァ・テクニックの持つ特質と、そこで培われる姿勢の感覚と自己の育ちという側面で考察を付け加えた。
11.Japanese Dancer in the view of Canadian Artists	単	2003年8月	Changing Japanese Identities in Multicultural Canada	カナダにおける舞台芸術活動において、日本人女性であるというアイデンティティがキャスティングや、作品、創作過程にどのような影響を及ぼしているかについてと、カナダ人クリエーターや観客の持つ先入観がパフォーマー本人のなかでどのように演技を左右しているのかをカナダ人アーティストへのインタビューを通じて考察し、社会が形成する先入観の芸術分野における問題点を指摘した。
３．総説				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
1.生活美学研究所　ソマティクス・からだ・表現の研究会「生きられた体験を理解する ― 現象学の実践としてのソマティクス」	共	2024年3月	武庫川女子大学生活美学研究所紀要第33巻　pp.85-103	Somatics を体験的に理解するため、村川治彦氏によるワークショップとその後の講演会の内容を記録としてまとめた。
2.女子体育　２０２２特集号	共	2022年11月10日	（公社）日本女子体育連盟	第34回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）報告特集号において、参加発表部門講評の一部を執筆した。pp.58-61
3.ソマティクスとは何か	共	2022年11月	武庫川女子大学生活美学研究所紀要　第32号 p. 109-119	生活美学研究所主催の「ソマティクスから一人称の科学へ」をテーマとした研究会の内容をまとめた。ドン・ジョンソン博士の研究を中心にソマティクスの歴史や思想を概観し、また医療や心理学、教育学における独自の可能性についても記載した。
4.マーサ・エディのソマティック実践と思想：「社会性のある身体／Socially Conscious Body」に着目して（査読付）	単	2022年10月31日	臨床教育学研究第10巻　pp.44-62日本臨床教育学会	筆者がエディから直接収集した資料やインタビューに記された彼女の言説をもとに、ソマティクスの実践・研究者であるエディの個人史と実践の概観を描き、「社会性のある身体」について考察を行った。
5.コロナ禍におけるダンス授業と「からだ」	単	2022年1月14日	教育2022年1月号教育科学研究会	コロナ禍におけるオンライン・対面授業を行き来する中で表面化したダンス教育実践における課題を、自身の実践から事例をあげて報告した。
6.ミツヴァ・テクニック（Mitzvah Technique）に始まったソマティクスへの関心	単	2016年6月	舞踊学会　ニューズレター第10号	カナダで開発されたソマティクス、ミツヴァ・テクニックを学びながら現役ダンサーとして踊っていた自身の経験を振り返り、現在の研究関心と、ダンス教育についての問題意識をまとめた。
7.北米で始まったソマティクス研究―それが臨床教育学に示唆するもの―	単	2016年3月31日	日本臨床教育学会、臨床教育学研究　第4巻　p.146－153	アメリカ哲学者であるトーマス・ハナが唱えたソマティクスという研究領域について、北米におけるその後の研究動向をまとめ、臨床教育学との関わりを考察した。
8.コンテンポラリー・ダンス。きらめく身体。―元バットシェバ舞踊団ダンサー、シャハー・ビンヤミニの講演から―	単	2015年11月16日	武庫川女子大学生活美学研究所紀要　第25号　p.7-17	2014年9月に行われた生活美学研究所主催のダンサーであり、振付家でもあるシャハー・ビンヤミニの講演会を基に、イスラエルで開発された動きの技法である「Gaga」の説明と、生活美学研究所2015年度の研究テーマに沿って、「きらめく身体」についての論考をダンス教育の視点からまとめた。
9.季刊情報誌　オーロラ	共	1995年～2002年	カナダの季刊情報誌　オーロラ 発行O'RORA（トロント・カナダ） 代表者　平塚かずよ	「ダンス・ダンス・ダンス」を担当し執筆した。村越直子（単著） 第13号「モダン・ダンスとは？現代社会の今」p.15 第14号「ハードです。だけど楽しいツアー」p.31 第15号「ダンサーの三つ目の顔　コレオグラファー」p.25 第17号「『踊ることが生きること』トロントダンスシアターのこと」p.36 第18号「国際創作舞踊コンクール」p.37 第19号「ダンスと映画」p.30 第21号「日加共演プロジェクト『Junction+』」pp.30-31 第22号「インドで踊り、考えた事」pp.24-26 第23号「ダンサーとダイエット」p.37 第24号「セレネ・イン・ジャパン」p.38 第25号「踊り手にも衣装」p.35 第26号「ダンサーとカンパニー」p.18 第28号「サイトウ・キネン・フェスティバル」pp.20-21 第30号「創造とエネルギーの街　元気になりたい時はニューヨーク」p.22 第35号「ロス・マンソン演出の芝居に初めて出て」p.28 第39号「スイスイ、タンゴを踊りたい」p.18
10.The Blending of Cultures	単	1995年	The Canada-Japan Business	カナダと日本をつなぐ経済情報誌（年6回発行）に掲載された。Dance Canada '94 Plus One　の内容とそれに参加したトロントダン

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
			review, May-June 1995.Vol.1 発行　T. Iwasaki & Associates Ltd.	スシアター日本初公演について、日本の観客の反応などを含めて書いた（英文）。 Naoko Murakoshi （単著）　pp.27-29
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.「合戦最後尾」	共	2024年9月15日	第27回少人数による創作ダンスコンクール　ARTISTIC MOVEMENT IN TOYAMA 会場：高岡市ふくおか総合文化センター	指導したダンス部作品「合戦最後尾」が、第27回少人数による創作ダンスコンクールにおいて、高岡市長賞を受賞した。
2.「魅惑リズム」	共	2023年12月10日	「座・高円寺　ダンスアワードⅡ」会場：杉並区立杉並芸術会館）	指導した作品「魅惑リズム』が、「座・高円寺　ダンスアワードⅡ」で第3位に入賞した。
3.「？…¿(クエスチョン)」	共	2022年9月18日	第２５回少人数による創作ダンスコンクール　ARTISTIC MOVEMENT IN TOYAMA 2022	指導した作品「？…¿(クエスチョン)」（武庫川女子大学ダンス部）が特別賞を受賞した。
4.2.2.22 Worldwide Duet Dance	共	2022年2月22日	Global Site Performance	この作品は世界中の女性たちのつながりをテーマとして、222人のダンサーが同じダンスを踊り、一つのダンス映像作品として発表することを目的とし創作された。コラボレーターとして招待を受け、その創作過程に参加し、ダンサーとして出演した。このダンス作品は、この分裂の時代につながり、からだが同じ瞬間にシンクロすることに意味を持つ。すべての文化、世界に対して、女性はつながり、共にいる方法を知っていることを示し、ダンスという世界共通の言語を通して、それを実現した。主催：Global Site Performance, 芸術監督：Marylee Hardenbergh, オリジナル音楽：Nicolas Soto
5.真澄鏡：Masukagami	共	2021年6月9日～11日	Global Water Dance 2021 Film Festival	世界中の振付家とダンサーがダンスを通じて、水に関する地球上の諸問題に対し各地域の人々の関心を呼びかけ、国際的なコラボレーションを支援し促進することを目的としたGlobal Water Dance にフィルム作品を出品した。このソマティック・ダンス作品は、武庫川の豊かな水源を讃え、自分たちがその水の一部であるというメッセージを表現したものである。振付/構成　村越直子、映像編集　力身茉利子、出演　武庫川女子大学ダンス部
6.「Lifetime Achievements of Dances」	共	2020年1月26日	主催：Dance Ontario 会場：Fleck Dance Theatre, Toronto, Canada	Lifetime Achievements Award を受賞したAllen Kaeja とKaren Kaeja の作品に、ダンサー・コラボレーターとしてソロを演じた。
7.「La Citta Sommersa」	共	2019年12月8日	Florence to New York Project 会場：Loewe Theatre, New York, USA	ニューヨーク在住のダンサー・振付家であるDouglas Dunn演出、Alfonso Belfiore作曲の作品「La Citta Sommersa」にダンスパフォーマーとして出演した。主催：ニューヨーク大学　New Music Ensemble
8.Global Water Dances-NY	共	2019年9月21日	主催：Global Water Dance 会場：East Riverside Park, New York, USA	ソマティック実践者・研究者であるDr. Martha Eddyが主宰者となっている地球規模のダンスイベントにダンサーとしてパフォーマンスを行った。
9.オペラ「エツッオ」	共	2019年8月31日	主催：Vivavaa Opera Company、講演：武庫川女子大学音楽学部 会場：伊丹アイ	ヘンデル作曲のオペラ「エッツオ」の振付を担当した。指揮・演出：　大森地塩、オーケストラ：Baroque Ensemble V O.C. on period instrument

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
10.Xtraordinary	共	2019年3月	フォニックホール Kaeja'd Dance, AK Elevation2019 実行委員会	カナダのダンスカンパニーKaeja'd Danceと共同し、日加のダンサー15名によるダンス公演と映像作品上映を、カナダ大使館（東京）、武庫川女子大学甲子園会館（西宮）で開催し、ダンサーとしても出演した。
11.「ちとにく」	共	2018年09月16日	第21回少人数による創作ダンスコンクール　ARTISTIC MOVEMENT IN TOYAMA 2018	指導した作品「ちとにく」が特別賞を受賞した。
12.第74回全国舞踊コンクール　優秀指導者賞	共	2017年5月30日	東京新聞主催全国舞踊コンクール	「検索履歴：羽　伸ばせない」の指導に対して、優秀指導者賞を受賞した。 村越直子、東出益代、山田知世
13.「検察履歴：羽　伸ばせない」	共	2017年4月3日	全国舞踊コンクール	指導した作品「検索履歴：羽　伸ばせない」（武庫川女子大学ダンス部S）が、全国舞踊コンクール群舞部で第2位を受賞した。
14.「親指は出張中」	共	2016年9月18日	第19回少人数による創作ダンスコンクール　ARTISTIC MOVEMENT IN TOYAMA 2016	指導した作品「親指は出張中」（武庫川女子大学ダンス部）が特別賞を受賞した。
15.「Checkmate」	共	2016年3月26日	全国舞踊コンクール	指導した作品「Checkmate」が全国舞踊コンクール群舞の部で入賞1位を受賞した。
16.「レ・ミゼラブル」	共	2016年3月24日	兵庫県立芸術文化センター中ホール	ヴォイスアーツ主催の演奏会形式「レ・ミゼラブル」公演の振付を担当した。 振付：村越直子 、東出益代
17.「きこえていますか　～Voices from Hades~」	共	2015年11月6日～8日	10th Anniversary REVERBdance Festival, Baruch Performing Arts Center, New York, USA	指導した作品「きこえていますか　～Voices from Hades～」（武庫川女子大学ダンス部）がREVERBdance フェスティヴァルに招聘を受け、参加した。
18.「枯れるために咲く」	共	2015年9月12日	第18回少人数による創作ダンスコンクール　ARTISTIC MOVEMENT IN TOYAMA 2015	指導した作品「枯れるために咲く」[武庫川女子大学ダンス部）が特別賞を受賞した。
19.「Four Horsemen Project」サウンド・デザイン・作曲部門　最優秀賞受賞	共	2015年6月22日	2015 Dora Mavor Moore Award (Canada)	2015 Dora Mavor Moore Award, General Theatre 部門において Outstanding Sound Design/Composition賞にノミネートされ、キャストとして受賞。 Rafael Barreto-Rivera, Paul Dutton, Steve McCaffery & bpNichol, Bill Brennan, Graham Hargrove, John Millard, Jennifer Dahl, Graham Mckelvie,Naoko Murakoshi and Andrea Nann.
20.「Four Horsemen Project」、パフォーマンス部門　最優秀賞ノミネート	共	2015年6月	2015 Dora Mavor Moore Award (Canada)	2015 Dora Mavor Moore Award, General Theatre部門において Outstanding Performance -Ensemble賞にノミネートされた。 Performers: Jennifer Dahl, Graham Mckelvie, Naoko Murakoshi and Andrea Nann
21.「くるみ割り人形」	共	2015年3月7日8日	宮っこ親子コンサート　西宮市フレンテホール 甲子園会館音楽会　武庫川女子大学甲子園会館	音楽学部応用音楽学科による、コンサート形式の「くるみ割り人形」第2幕のダンス振付を担当した。振付： 村越直子、東出益代
22.「Four Horsemen Project」	共	2014年11月6日～11月22日	Soulpepper Theatre Company	Toronto の劇団Volcano の作品にダンス・パフォーマーとして出演した。 会場：Young Centre for the Performing Arts, トロント（カナダ） 演出：Ross Manson 振付：Kate Alton　Performers: Jennifer Dahl, Graham Mckelvie, Naoko Murakoshi ,Andrea Nann
23.「Four Horsemen	共	2014年10月	East Cultural	Toronto の劇団Volcano の作品にダンス・パフォーマーとして出演

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
Project」		28日～11月2日	Centre	した。 会場：East Cultural Centre、バンクーバー（カナダ） 演出：Ross Manson 振付：Kate Alton Performers: Jennifer Dahl, Graham Mckelvie, Naoko Murakoshi ,Andrea Nann
24.「胡桃の音」	共	2014年9月14日	第17回少人数による創作ダンスコンクール ARTISTIC MOVEMENT IN TOYAMA 2014	指導した作品「胡桃の音」（武庫川女子大学ダンス部）が特別賞を受賞した。
25.「未来への雫。」	単	2011年10月	神戸女学院大学音楽学部舞踊専攻第3回卒業公演	神戸女学院大学舞踊専攻第3期生に「未来への雫。」を振付し、発表した。 会場：芦屋市民センター ルナ・ホール
26.「nothing- weight -light」	単	2011年3月18日～21日	Dai Don Den 3	会場：Winchestre Street Theatre,トロント（カナダ） 音楽：Sarah Shugarman 照明：Ron Snippe 主催：Green Tea Dance Collective
27.「Untitled」	単	2011年3月12日～14日	Older and Reckless	自作自演ソロを3月12日から14日まで公演発表した。 会場：Dancemakers Studio,トロント（カナダ） 音楽：Sarah Shugarman 照明：Ron Snippe 主催：MOonhORsE Dance Theatre
28.「空（ ） Magical Unicorns」	単	2009年12月	神戸女学院大学音楽学部舞踊専攻第1回卒業公演	神戸女学院大学音楽学部舞踊専攻第1回卒業公演に、「空（ ） Magical Unicorns」を振付した。 会場：芦屋市民センター ルナ・ホール
29.「Four Horsemen Project」	共	2009年7月	Poesiefestival Berlin 2009	Toronto の劇団Volcano の作品にダンス・パフォーマーとして出演した。 会場：Kesselhaus, ベルリン（ドイツ） 演出：Ross Manson 振付：Kate Alton Performers: Jennifer Dahl, Graham Mckelvie, Naoko Murakoshi ,Andrea Nann
30.「10～。」	単	2009年2月	神戸女学院大学音楽学部第2回公演	神戸女学院大学音楽学部舞踊専攻に、舞踊作品「10～。」を振付し発表した。 会場：神戸女学院大学エミリー・ブラウン館
31.「Four Horsemen Project」	共	2008年9月	Dublin Fringe Festival	Toronto を拠点にする劇団Volocano の作品にダンスアーティストとして出演した。 会場：Project 2,ダブリン（アイルランド） 演出：Ross Manson 振付：Kate Alton Performers: Jennifer Dahl, Graham Mckelvie, Naoko Murakoshi ,Andrea Nann
32.「Four Horsemen Project」	共	2008年6月	Thousand Islands Playhouse	Toronto を拠点にする劇団Volocano の作品にダンスアーティストとして出演した。 会場：Firehall Theatre,ガナノクエ（カナダ） 演出：Ross Manson 振付：Kate Alton Performers: Jennifer Dahl, Graham Mckelvie, Naoko Murakoshi ,Andrea Nann
33.「La Loba」	単	2008年3月	兵庫県洋舞家協会主催洋舞スプリングコンサート	「La Loba」を振付。ダンサー：文山絵真 音楽：Sarah Shugarman 会場：神戸オリエンタル劇場
34.「Four Horsemen Project 」	共	2008年1月	Metro Centre	トロントの劇団Volcanoの作品にダンス・パフォーマーとして出演した。 会場：Metro Centre,ビクトリア（カナダ） 演出：Ross Manson 振付：Kate Alton Performers: Jennifer Dahl, Graham Mckelvie, Naoko Murakoshi ,Andrea Nann
35.「Four Horsemen Project」	共	2008年1月	PuSh international Festival	劇団Volcano作品「Four Horsemen Project」のパフォーマーとして、バンクーバーで毎年行われる国際演劇フェスティバルに参加、出演した。 会場：Push Festival,バンクーバー（カナダ） 演出：Ross Manson 振付：Kate Alton Performers: Jennifer Dahl, Graham Mckelvie, Naoko Murakoshi ,Andrea Nann
36.「Four Horsemen Project」	共	2007年3月	Great Canadian Theatre Company	Toronto を拠点にする劇団Volocano の作品にダンスアーティストとして出演した。会場：Great Canadian Theatre Company、オタワ（カナダ）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
37.「Class at 6 pm: Demonstration: Graham Technique」	単	2007年2月14日～2月18日	神戸女学院大学音楽学部舞踊専攻第1回公演	演出：Ross Manson 振付：Kate Alton Performers: Jennifer Dahl, Graham Mckelvie, Naoko Murakoshi ,Andrea Nann マーサ・グラハムの技法をもとに、基本エクササイズのデモンストレーションを構成・振付した。音楽：Sarah Shugarman 会場：神戸女学院大学ミリアム館ダンス・スタジオ 主催：神戸女学院大学音楽学部
38.「Four Horsemen Project」	共	2007年2月	主催：Theatre Volcano, Theatre Centre	Toronto を拠点にする劇団Volocano の作品にダンスアーティストとして出演した。 会場：Theatre Centre, トロント（カナダ） 演出：Ross Manson 振付：Kate Alton Performers: Jennifer Dahl, Graham Mckelvie, Naoko Murakoshi ,Andrea Nann
39.「Cold Night」	共	2006年7月	Dance Meeting Collection #6	カナダの振付家、Sasha Ivanochko 作品にダンサーとして出演した。 振付：Sasha Ivanochko ダンサー：Sasha Ivanochko、 村越直子 会場：愛知県芸術文化センター
40.「Eyes of Witch（魔女の瞳）」	単	2006年3月16日～3月18日	Dai Don Den 2	トロント在住の和太鼓奏者Kiyoshi Nagata氏との共同制作。日本からダンサーの明尾真弓氏を招聘し、カナダ人ダンサーDanielle Baskervilleとのデュエットを創作、発表した。 会場：Winchester Street Theatre, Toronto 主催：Green Tea Dance Collective 助成：Ontario Arts Council, Toronto Arts Council, Laidlaw Foundation, Japan Foundationトロント文化センター
41.「String Quartet No.1」	単	2005年12月	Via Salzburg	トロント在住のバイオリニスト、Mayumi Seiler氏からの委嘱により、ペンデレツキー作曲の弦楽四重奏に振付し、発表した。 ダンサー：Bill Coleman, Naoko Murakoshi 会場：Glen Gould Studio, Toronto 主催：Via Salzburg
42.「Yamato Nadeshiko - Sakura Version（大和撫子～さくら編）」	単	2004年8月13日～8月14日	Dai Don Den	北米人の持つ日本人女子のイメージと、現代の日本人女子の言動のギャップを表現した作品。 ダンサー：松浦文子、森田真由子 会場：Winchester Street Theatre, Toronto 主催：Green Tea Dance Collective
43.「1980年2月22日の日記より～"Camellia"」	単	2004年8月13日	全国合同バレエの夕べ	日本バレエ協会東北支部からの委嘱作品。 ダンサー：日本バレエ協会東北支部会員25名 会場：新国立オペラ劇場 主催：社団法人　日本バレエ協会
44.「未来からの伝言」	共	2004年7月	Dance Meeting Collection #5	振付:秀和代、Graham Mckelvie,村越直子 会場：愛知芸術文化センター 主催：ヒデ・ダンスラボラトリー
45.「her silence, softly breaks....」	単	2003年11月28日～11月30日	An Evening of Modern Dance Works	M.Nourbese Philip の詩、"She tries her tongue, her silence softly breaks"からインスピレーションを得た作品。 ダンサー：Keiko Kitano, Kathleen Martinez, Mayuko Morita, Mary-jo Mullins, Carly Wang 主催：Aurora Dance 会場：The Distillery, Dancemakers Studio Theatre, Toronto 2004年8月18日―22日に、fFIDA（フリンジ国際ダンスフェスティバル）に招聘を受け、Mainstage で再演された。 会場：Winchester Street Theatre, Toronto
46.「Epitaph under thousands of petals」	単	2003年7月26日	Converging Streams:Haiku	18世紀の俳人大島蓼太の句"silent communion between the guest, the host and the white chrysanthemum(ものいわず　客と　亭主と　白菊と）"を題材に4人の振付家が作品を発表する企画に委嘱をうけた。 ダンサー：Carly Wong, Naoko Murakoshi 会場：Trinity St.Paul Center, Toronto 主催：Wu Ming Dance Project 助成：Laidlaw Foundation
47.「奇妙な男のワル	共	2002年10月	Dance Meeting	名古屋在住の舞踊家、秀和代氏、トロント在住の舞踊家Graham

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
ツ」			Collection #4	Mckelvie氏との共同制作による作品を発表した。 振付：秀和代、Graham Mckelvie、村越直子 主催：ヒデ・ダンスラボラトリー 会場：名古屋市芸術創造センター
48.「Kizuna」	共	2002年8月	fFIDA（フリンジ国際ダンスフェスティバル）	秀和代、Graham Mckelvieとの共同振付作品をトロントで開催されたフリンジ国際ダンスフェスティバルに出品した。 上演作品のなかで、とくに芸術性に優れた創作作品としてPaula Citron賞を受賞した。 振付：秀和代、Graham Mckelvie、Naoko Murakoshi 会場：Baddies and Bad Times Theatre, Toronto 主催：fFIDA
49.「Esperanza」	共	2002年5月	Esperanza	トロントのダンスアーティスト、Patricia Beatty の新作にダンサーとして出演した。 振付：Patricia Beatty ダンサー：Allen Kaeja,Graham Mckelvie, Naoko Murakoshi, Andrea Nann,Dan Wild, Carly Wang 会場：Baddies and Bad Times Theatre, Toronto
50.「Allegro 108」	共	2001年9月	Acceleration	振付家Kate Alton と演出家Ross Manson の共作による作品Allegro 108にパフォーマーとして出演した。 パフォーマー：Jennifer Dahl, Michael Sean Marye, Naoko Murakoshi, Andrea Nann 会場：Dancemaker's studio Theatre, Toronto Market Hall, Peterborough 主催：Overall Dance
51.「Hand」	単	2001年8月16日～8月19日	fFIDA mainstage	作曲家・ヴァイオリニストのPaul Meyer 氏にオリジナル音楽を依頼して創作を行い、発表した。 ダンサー：Ray Hogg, Jessica Runge 会場：Buddies and Bad Times Theatre, Toronto 主催：fFIDA international Dance Festival 助成：Laidlaw Foundation
52.「Four Hyms」「Imtervallo」	共	2001年5月	Openears Concert	David Earle 振付作品「Four Hyms」、及び D.A.Hoskins 振付作品「Peri Imtervallo」2つの新作にダンサーとして出演した。 会場：The Resistry Theatre, Kitchener 主催：Openears
53.「Soul Map」	共	2000年8月	fFIDA 国際ダンスフェスティバル	トロントの振付家Pascal Desrosiersの作品にダンサーとして出演した。 ダンサー：Pascal Desrosiers, Naoko Murakoshi 会場：Baddies and Bad Times Theatre, Toronto 主催：fFIDA
54.「Tatsu」	共	2000年7月20日	Dance Meeting Collection #3	名古屋の舞踊家、秀和代氏との共同作品を発表した。 振付、ダンサー：秀和代、 村越直子 、Graham McKelvie 会場：愛知芸術文化センター 主催：ヒデ・ダンス・ラボラトリー
55.「Kite」「Suspended Seasons」	共	2000年6月	Spring Rite	トロントの振付家による公演において、Sasha Ivanochko振付のソロ作品「Kite」、及び、Patricia Beatty 振付作品「Suspended Season」にダンサーとして出演した。 会場：Premiere Dance Thatre, Toronto 主催：Spring Rite
56.「ファウストの劫罰」	共	1999年9月	サイトウ・キネン・フェスティバル	サイトウ・キネン・フェスティバルのオペラ「ファウストの劫罰」にダンサーとして出演した。 会場：松本文化会館 演出：Robert Lepage 振付：Johanne Madore ダンサー：ジョアン・マードル／キャロル・クーフトワ／サラ・ウィリアムズ／ジュリー・スレイター／安藤洋子／明尾真弓／上村なおか／大久保真貴子／小淵博美／金光弥耶／佐藤美紀／ 村越直子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
57.「Time moveing across the memory」	共	1999年6月18日～6月20日	Selene ~A feast for senses~	トロント在住の美術家、Michiko Nakamura氏による舞台美術との共同制作を行い、発表した。 振付：Naoko Murakoshi、舞台美術：Michiko Nakamura ダンサー：佐々木想美、Grace Miyagawa,Keiko N. Naoko Murakoshi 会場：Winchester Street Theatre、Toronto 助成：Japan Foundation
58.「Silver Castle」	単	1999年5月20日～5月23日	Seven people for Seven pieces	7人のダンサーによる競演パフォーマンスにソロ作品を創作し、発表した。 ダンサー：Mary-josee Dubois 会場：Winchester Street Theatre 主催：7 for 7 助成：Toronto Art Council, Laidlaw Foundation, The Mclean Foundation
59.「白昼夢」	共	1998年7月17日	Dance Meeting Collection #2	名古屋在住の舞踊家、秀和代と美術家渡辺るり子氏との共同制作作品に招聘を受け、作品を手掛けた。 振付：秀和代、村越直子 ダンサー：ヒデ・ダンスラボラトリー 美術：渡辺るり子 会場：愛知芸術文化センター
60.「鍵」	単	1998年6月18日6月20日	Salon de Gold	ダンサー：佐々木想美、Graham Mckelvie, 村越直子 会場：Yellow（18日）、スパイラルホール（20日） 主催：Salon de Gold
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.衣をまとふ　空間を纏う	共	2025年2月20日	武庫川女子大学附属総合ミュージアム ソマティクス・からだ・表現の研究会	講師：鷲尾華子（衣装デザイナー） 指定討論者：森田雅子 司会・コーディネーター：村越直子 舞台衣装を手がける鷲尾華子氏が、からだ、纏う衣、空間について自作の衣装の展示、またダンサーによるデモンストレーションを交え、創作活動の原点としてのソマティクスと重ねて講演した。その講演をふまえ、後半では指定討論者として本学の森田雅子先生に専門的視野から質問をいただき、それをもとに参加者との対談を行った。
2.臨床教育学と教育DX	共	2024年5月19日	日本臨床教育学会　オンライン連続研究会第3回	日本臨床教育学会の連続研究会において、講演者として登壇し、昨今話題に上がってきた「教育DX」について、身体性を切り口に討論を行った。講演者：山本宏樹（大東文化大学）、村越直子（武庫川女子大学）
3.Somatic Movement Education and Dance	単	2024年5月	Fosseen-Kusaka Distinguished Professorship Exchange, Pence Union Building, Eastern Washington University	日下・フォッシーン基金教授交流プログラムの派遣員として、イースタンワシントン大学の学内公開講演会において、実演を交えた研究発表を行なった。
4.内側から捉える身体の試み：体験的解剖学とボディマインド・センタリング	共	2024年2月15日	生活美学研究所、ソマティクス・からだ・表現の会	ボディマインド・センタリング公認教師であり、上智大学基盤教育センター身体知領域教授の吉田美和子氏を講師として招き、ボディマインド・センタリングのワークショップを実施した。
5.生きられた体験を理解する-現象学の実践としてのソマティクス	共	2023年2月8日	武庫川女子大学生活美学研究所「ソマティクス・からだ・表現の会」主催	講師：村川治彦氏（関西大学） 指定討論者：吉田美和子氏（上智大学） コーディネーター：村越直子 身体の経験を深く探求する具体的実践法としてトーマス・ハナが提唱したソマティクスについて、主にセンサリーアウエアネスを基に、経験を探求する方法としてのSomatics を体験的に理解するためのワークショップを行ったのち、指定討論者の吉田美和子先生を中心に、参加者とともにソマティクスの基本的概念について議論し

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
				た。
6.ソマティクスから一人称の科学へ	共	2022年2月23日	武庫川女子大学生活美学研究所	2021年度第２回目のソマティクス・からだ・表現の研究会を開催した。それを企画・コーディネートし、司会者をつとめた。本研究会は関西大学教授、村川治彦氏を講師として招き、zoomを利用したオンライン開催で一般公開した。研究会では「ソマティクスから一人称の科学へ」というテーマに沿って、ソマティクス理論の第一人者であるドン・ジョンソン博士の研究を中心にソマティクスの歴史や思想を概観し、また医療や心理学、教育学における独自の可能性について指定討論者とともに討論した。指定討論者：畑山知子（南山大学准教授）、橋本有子（お茶の水女子大学講師）
7.ソマティック実践とダンスの小史：ソマティック・エデュケーションの歴史的展開とダンスとの関係	共	2022年	Supplement of Journal of Dance and Somatics, Intellect	米国ソマティック実践・研究者、Martha Eddyの論文「A brief history of somatic practices and dance: Historical development of the field of somatic education and its relationship to dance」を橋本有子（お茶の水女子大学）と共同で和訳した。
8.ソマティクスって何だろう	共	2021年11月14日	生活美学研究所ソマティクス・からだ・表現の研究会	ボディワークの実践・研究者である畑山知子氏（南山大学准教授）を講師として招き、講演会の企画をし、当日の司会を務めた。畑山氏のアメリカ研修の成果をご講演いただくとともに、ソマティクス研究の現状について参加者と対談した。
9.「大地と空間と身体を回る力ーダンサーたちの研究と実践ー」	共	2019年5月18日	武庫川女子大学生活美学研究所　第１回定例研究会、およびワークショップ	ダンサーたちの研究と実践に着目したワークショップと研究会を同時開催し、コーディネーター・司会として参加した。ワークショップの講師に、お茶の水女子大学講師、橋本有子氏、定例研究会に神戸大学准教授の関典子氏を招いた。指定討論者として、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター主任研究員である、山田せつ子氏に登壇いただき、会の終わりにはテーマについて、ダンサー・研究者として立場から、登壇した講師、来場者たちとともに議論を深めあった。
10.「モーション・クオリア」研究 ～自由落下による必然的な動きと表現～	共	2019年02月03日	京都造形芸術大学舞台芸術センター公募研究事業	研究分担者として、研究発表会にパネリスト、研究発表者として登壇した。
11.「一器多用性の美学　ー日本のくらしとからだとわざを体験しようー」	共	2018年06月16日	武庫川女子大学生活美学研究所　生活美学ワークショップ	大谷大学特別契約教授原田奈名子氏による一般対象向けの公開ワークショップを企画・開催した。
12.「動きの瞬間を捉える」		2017年5月20日	武庫川女子大学生活美学研究所	ダンス教育に影響を与えたラバン・ムーブメント・アナリシスの認定指導者である橋本有子氏を招いて、動きの質についての講演会を企画した。指定討論者に舞踊教育専門の原田奈名子教授（京都女子大）と幼児教育・ダンスセラピー専門の崎山ゆかり准教授を招いて研究討論した。
13.Body and Earth	共	2017年	Body and Earth http://www.body-earth.org/translations/	ダンスアーティストであり、 *Body Stories*（1998）、*Body and Earth*（2002）の著者であるAndrea Olsen氏による、ソマティック・レッスンのウェブサイト版の翻訳を共同で行った。 訳：橋本有子、 村越直子、山田知世
14.「からだとイメージで遊ぶーMovement Research-」		2016年9月10日	武庫川女子大学生活美学研究所　生活美学ワークショップ	元バットシェバ舞踊団プリンシパルダンサーであり、Gaga教師のシャハー・ビンヤミニ氏による一般対象向けの公開ワークショップを企画・開催した。
15.「素の美　ー日本人の美意識ー」		2015年11月21日	生活美学研究所平成２７年度秋季シンポジウム	生活美学研究所　秋季シンポジウム「素の美ー日本人の美意識ー」の総合司会を務めた。
16.「コンテンポラリー・ダンス。きらめく身体。」		2014年9月20日	生活美学研究所2014年度第2回定例研究会	生活美学研究所定例研究会にイスラエルの元バットシェバ舞踊団団員で、Gaga教師であるShahar Binyamini氏を招き講演会を開催した。その討論会の司会を務めた。
17.「身体、舞踊、トランスーバリ島、里の祭祀を考えるー」		2014年3月1日	生活美学研究所2013年度第6回定例研究会	生活美学研究所定例研究会に舞踊批評家、慶応義塾大学名誉教授である石井達朗氏を招いて講演会を開催した。また、討論会の司会を務めた。
18.「Introduction to	単	2011年3月8	国際交流基金　ト	日本のコンテンポラリーダンスの現状や特性についての講演をし

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
Japanese Contemporary Dance and Dancers」の講演		日	ロント日本文化センター	た。 共催：国際交流基金トロント日本文化センター、Green Tea Dance Collective in Toronto
19.シンポジウム「ダンス×地域×大学より　ダンス甲東園を目指して」		2010年	財）地域創造助成企画、双葉化学商会	財）地域創造助成企画　公共ホール現代ダンス活性化事業にパネラーとして参加。
20.音楽家の為の姿勢法	単	2007年	神戸女学院大学音楽学部	アレクサンダー・テクニックや、ミツヴァ・テクニックなどの姿勢法についての講義を、とくに音楽家の姿勢に焦点をあてて行った。 会場：神戸女学院大学合奏室
21.姿勢について	単	2006年12月	神戸女学院大学同窓会めぐみ会講演会	姿勢について、神戸女学院大学同窓生に向けた講義を、ミニレッスンを交えて行った。
22.CJ8　Canada/Japan Partnership	共	2000年～2001年	カナダ／日本　ダンスプロジェクト実行委員会	日本とカナダの振付家8名が互いに相手国のダンサーに振付を行い、両国で公演ツアーを行うプロジェクトにおいて、リハーサルディレクターを務めた。 公演地は、オタワ・トロント・バンクーバー・モントリオール・東京・名古屋・京都の計7都市で行われた。
６．研究費の取得状況				
1.水への関心を促す日加共同ダンス映像作品制作と、そのための芸術的かつ民族誌的な研究	共	2024年4月	令和6年度兵庫研究ネットワーク（HORN)事業	本共同研究は、ソマティック実践者でありダンス教育者でもあるリサ・サンドロス氏と共に、2025年開催予定の国際グローバル・ウォーター・ダンス・フェスティバル（GWD）に出品する映像作品を共同制作するため、パフォーマンス民族学的な基盤研究を実施し、創作マテリアルを収集することを目的とする。GWDは、世界中の振付家とダンサーがダンスを通じて、水に関する地球上の諸問題に対し各地域の人々の関心を呼びかけ、国際的なコラボレーションを支援し促進することを目的とした国際的なイベントである。ダンス作品のテーマとして、気候変動の文脈における「水に対する視点」に焦点を当て、芸術的かつ民族誌的な研究を行う。特に日本では、津波に代表される水害と水からの恩恵の間で暮らしが営まれている。サンドロス氏のパフォーマンス民族学の知識を生かし、日加両国のダンサーが水との関係で踊る経験を対話し、GWD開催の目的「多文化共生」「環境」「社会発展」に賛同し、その意義を深める。
2.ソマティクスの実践・研究動向の海外調査、およびその基礎的・本質的概念の抽出と検討	共	2020年～2023年	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金）　基盤研究（C）（一般）	日本において注目されつつあるソマティクスは、国内研究者がいまだ少数であり、分野を超えて思考し実践を共有する現状に至っていない。よって、その中心概念の解釈や実践方法に微妙な違いが見られる。そのため本研究では、領域を牽引してきた米国在住のソマティクス研究・実践者5名のインタビューを通して、ソマティクスの基盤となる基礎的・本質的概念を明らかにし、日本語で文献を作成する。 研究代表者：村越直子（武庫川女子大学）、研究分担者：橋本有子（お茶の水女子大学）課題番号20K11500
3.「モーション・クオリア」研究 ～自由落下による必然的な動きと表現～	共	2018年4月～2019年3月	＜舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点＞ 共同研究プロジェクトの公募事業 2018 年度京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター オープンラボラトリー	本研究は、シディ・ラルビ・シェルカウイ、オハッド・ナハリン、マッツ・ エックといった数々の振付家と協働しており、国際的に活躍中の工藤聡氏を招聘し、《シンポジウム》《実践分析》 《劇場実験》といった多角的なアプローチを通して、この独自性と可能性に満ちた「モーション・クオリア」の解明する。そして、舞踊や振付の概念そのものについての再考を図る。さらに、複数年度にわたる継続研究を実施を目指し、作品創造および劇場の新たな社会機能の発見に資することを目的とする。 研究代表者：関典子（神戸大学） 研究分担者：工藤 聡（在スウェーデン、演出・振付・舞踊家）、海野敏（東洋大学）、坂口 勝彦（早稲田大学理工学術院） 村越直子（武庫川女子大学）
4.ダンス教育で育てるからだを問う~ソマティクスとボディ・ワークのかかわりか	共	2017年4月から、2023年3月	科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金）　基盤研究（C）（一般）	ダンス、表現運動の指導のむずかしさは議論されてきた。本研究は「表現運動・ダンス領域でどのような「からだ」を育てようとするのか」について、ソマティクスの思想とボディ・ワークの技法をもとに問い直すことを目的としている。代表：原田奈名子（京都女子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
ら				大）分担：大橋奈希左（上越教育大）、村越直子（武庫川女子大）の共同研究。 研究分担者として、臨床教育学の立場から舞踊教育とソマティクス及びボディワークの分野を担当する。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2024年2月19日~	宝塚市スポーツ推進審議会委員
2.2024年～現在	International Somatic Movement Education and Therapy Association
3.2021年12月1日～ 現在	武庫川臨床教育学会　紀要編集委員
4.2017年9月～現在	日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門　舞踊研究会
5.2015年12月	第67回舞踊学会大会　実行委員
6.2014年4月～現在	日本女子体育連盟　特別会員
7.2014年04月～現在	International Association for Dance Medicine and Science
8.2012年4月～現在	日本臨床教育学会
9.2012年～現在	舞踊学会
10.1992年～現在	Dancer Transition Resource Centre